

# 校内研だより no.2

四万十市立西土佐中学校  
2020年6月8日 文責：福田

「生き方につながる豊かな学力の保障～主体的・対話的で深い学びの推進（言語活動と教科間連携）～」

## 第1回全校研 “2年英語 A Trip to Finland ” 兼松先生

単元ゴールに「英語で入国審査のやり取りをする」を設定し、11時間の単元で未来形の文の構造を理解させ、自分の気持ちや予定を表現できるようにすることを目指しています。本時はその2時間目でした。

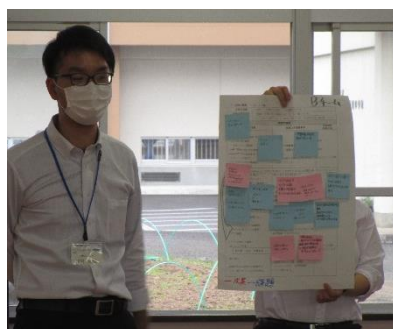
西土佐中学校での7年間の実践の積み重ねにより、英語教室の環境が整えられ、モニター・音声機器を効果的に活用しています。英語でのやり取りやスピーディな展開に慣れていない者にとっては、とまどいもありますが、生徒には授業の流れが定着しており、全体的にリズムカルで一人ひとりがよく活動していました。特に、全体で単語や構文を繰り返し発話した後、ペアで実際の場面での対話を行わせ、ミニノートや英語ノートに発話したことを書かせることで、学習したことの定着が図られる流れが見事でした。無駄なく飽きさせることなく、「聞く」「話す」「書く」活動が何度も繰り返されていることが学力向上につながっていると感じました。



### 授業後の協議《合同チーム会》

授業者より⇒チーム会⇒発表⇒まとめ⇒指導・助言⇒わたしの授業改善

第1回の全校研であったため、指導案拡大法で事後協議を行った。合同チーム会での指導案検討会やAチームでの模擬授業で話題に上がったのは、「めあて」と「まとめ」の設定であった。学習する文法事項をそのまま出すのではなく、生徒に疑問を持たせる形で「めあて」を設定し、「まとめ」が答えになるようにすると自然につながるのではないかという意見や代案が出され、授業者が再検討して生み出したのが『めあて：be going to～以外で未来のことを表すにはどんな言葉を使ったらいいだろう？』⇒『まとめ：will～も使える』だった。松本指導主事（西部教育事務所）からも、今日のまとめとめあては合っていたと評価していただき、チーム会で事前協議する意義を感じたことだった。



今回の全校研で見た共通課題は大きくまとめて3つである。

めあて・単元ゴールの設定	特別支援教育の視点での 手立てや工夫	学習規律
<p>生徒を主体的な学習者に育てるためには、まずは「わかるようになりたい・できるようになりたい・やってみよう」という生徒の学習意欲を高める手立てが大切である。自分一人ではできない発想や、専門教科だからこそ見えないことがある。その壁を、教科間連携で乗り越えていきたい。また、まずは校内にいる人材活用を図りたい。ALTの活用場面もまだまだありそうだ。</p>	<p>あまり学力差がない3年生、非常に学習規律が守れていてきちんとしている2年生であるが、一人ひとりが抱えているものがある。常に目配りが必要である。また、1年生を一人も取りこぼすことなく引き上げていくためには、今後ますますの連携が必要であろう。遠慮なく授業を見合い、生徒の具体的な姿で語り合いながら、自分の授業改善に生かす姿勢を持ち続けるチームでありたい。</p>	<p>まず、今回の授業で見たのが「筆箱」であった。すぐに全授業で改善したい。授業開始の瞑想までに、机の上に授業準備は整っているだろうか。筆箱は出ていないだろうか。筆記用具は必要なものだけが出されているだろうか。</p> <p>徹底することで、生徒も気持ちよく授業に臨めることだろう。</p>

### 指導・助言より

(1) 兼松先生は、研究授業までに指導案を何度か書き直したということだった。授業提案として、指導案を変更したのはどのように考えたからなのかという《授業を見る視点》を提示してほしい。参観者はその変更が授業でどうであったのかを見るようにするとよい。

(2) めあてとまとめは合っていたが、授業の最初からめあてが出されていた。今日のめあてを置く前に、めあてに向かうよう、生徒とやり取りしてほしい。めあての必然性を生徒が感じると、主体的に授業に参加できる。今回なら、めあての提示までに生徒とやり取りする中で、「どのように尋ねると、相手から旅程を聞くことができるだろう」といっためあてが出せたのではないか。

(3) 今回は指導案拡大法だったが、協議の仕方は様々あるので、より工夫をしていってほしい。

### わたしの授業改善

- めあてのことば
- ゴール活動のことば工夫します
- 生徒がやる気になる単元ゴールの設定！！
- めあて（単元）リアクション

- 学習規律の確立
- めあてを子どもとの対話の中で！
- 支援がいる生徒を置いていかない！

支援が必要な生徒にわかるような指示や板書計画をする。

- めあてに向かうやり取りと既習事項の活用
- ペア対話

兼松先生、全校研のスタートにふさわしい素晴らしい授業をありがとうございました。また、いつも感心しますが、自分の授業のように熱心に指導案検討をするチーム会の温度が熱いです。次回は音楽。またまた楽しみです。

松本指導主事さんから資料を2ついただいています。熟読の上、実践に生かしていきましょう。